

国語教育相談室

小学校
no.
88

光村図書

特集

新学期から始める学習習慣づくり

わたし
ことは

羽目になる
鈴木のリタ

デジタル

取材の観点を確かめる

国語
指導

四月からの
「書くこと」

書写

「古代文字」を楽しむ

平成28年度用教科書
訂正箇所

2016, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版はホームページよりダウンロードできます。
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

小学校
指導者用

平成27年度版小学校教科書準拠



CoNETS 版
デジタル教科書

小学校
学習者用

「国語デジタル教科書」

光村「国語デジタル教科書」1～6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円＋税
ダウンロード版 各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円＋税
ダウンロード版 20,000円＋税

DVD版

使用期間は、平成27年度版教科書の
使用期間内です。

ダウンロード版

1年単位でのご使用も可能となりました。
使用期間は、左記期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。



ともに学ぶ授業に
伝え合う力が
身につく授業に
個に応じた授業に

ご好評をいただいている指導者用と共に、
平成27年度版として現在開発中!!

商品の情報につきましてはホームページにて
随時公開予定です。



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.171 2016(平成28)年4月15日発行

発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

羽目になる

レジでおつりをもらう時に、一瞬耳を疑った。「今、百円玉がございませんので、おつりに十円玉が混ざる羽目になりますが、よろしいでしょうか？」と言われたのだ。羽目とな？ カチンときかけたところで、ちよつと考える。なぜ店員さんはそんな言葉を使ったのか。

言葉選びの正誤は別にして、これは思いやりの表現なのだろう。店員さんは私を思いやり、私の立場になってみた。すると十円玉ジャラジャラは堪え難いほど惨めに思えた。レジに並ぶタイミングが悪かったために、この人は十円玉まみれ。痛いほど分かりますよ、その悔しさ。そこで出てきた言葉が「羽目」だった。

そう考えて私のカチンが消えた後、また別の思いが頭をもたげた。私は財布が十円玉まみれになって、それほど惨めに感じない。でも店員さんはそう感じるらしい。この思いやりというやつは、図らずも、自分が相手の立場になった時にはこう思うとい

うことを相手にさらけ出すことになるのだ。
翻^{ひるがえ}って、おつりが十円玉だらけになることは、それほどいけないことだろうか。百円玉切れになるなんてよくあることだろう。その状況を惨めに感じるのはおかしい。

では、十円玉まみれを惨めに思う人間だと思われないように相手を思いやるにはどうしたらいいのか。つまり、相手の立場になることによって映し出される自分の見え方を気にして、相手の立場になるなり方を考える必要があるということになる。なんだか訳が分からない。合わせ鏡のラビリンスに迷い込んだようだ。自分を見失う。

店員さんは何と云うのが正解なのか。「おつりが十円玉になります。申し訳ありません。」これだ、いいと思う。「よろしいでしょうか？」と相手を思いやる必要もない。そもそもよろしいかと聞いて、嫌だと言われたらどうするのか。断らないだろうという前提の丁寧さであれば、どこかいやらしい。

思いやりはすばらしい。だが、状況に応じた自分の考えを正直に偽りなく伝える力もまたすばらしい。相手の立場になるという糞^{みのかき}笠に隠れない、頼らない。こうして思いを綴^{つづ}ることで、私は面倒くさい人間だと思われる羽目になりはしないか、不安は残る。



1975年、静岡県生まれ。会社員、グラフィックデザイナーを経て、絵本作家になる。いろいろな職業の職場を訪ねる「しごとば」シリーズ(プロンズ新社)が人気を博す。『しごとば 東京スカイツリー』で第62回小学館児童出版文化賞、『ぼくのトイレ』(PHP 研究所)で第17回日本絵本賞を受賞。著書に、『かわ』(幻冬舎)、『そだてば』(朝日新聞出版)、『とんでもない』(アリス館)、『おならをならしたい』(小学館)などがある。

CONTENTS

わたしとことば 羽目になる ————— 鈴木のりたけ

特集 02 新学期から始める学習習慣づくり

提 言 学習習慣づくりの基礎・基本 ————— 吉永幸司
実践実例 低学年編 ————— 岡田博元
中学年編 ————— 野村真一
高学年編 ————— 青山由紀

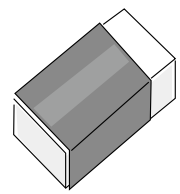
教育コラム 12 その授業でどんな力がついたか、子どもは自覚できていますか？ ————— 森 和久

デジタル教科書を使いこなそう 6 14 「ワーク」で、取材の観点を確かめる ————— 佐藤幸江

子どもたちを「書写好き」に特別編 18 「古代文字」を楽しむ ————— 鍋島稲子

なるほど国語指導 6 22 4月からの「書くこと」 ————— 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

国語・書写 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ
「デジタル教科書」バージョンアップのお知らせ



特集

新学期から始める 学習習慣づくり

新学期を迎えました。入学・進級した子どもたちの心は、新しいことを始めたいという意欲に満ちていることでしょう。この時期に、国語学習への期待感をもたせ、よりよい学習習慣を身につけさせたいものです。

本特集では、国語の学習習慣づくりの基礎・基本について、吉永幸司先生（前京都女子大学教授）にご提言いただきます。また、その具体的なアイデアを三名の先生方からご紹介いただきます。

提言

学習習慣づくりの基礎・基本

前京都女子大学教授

吉永幸司



1940年、滋賀県生まれ。滋賀大学附属小学校教諭として26年間勤務。著書に、『吉永幸司の国語の強化書』『吉永幸司の国語指導入門』（教育技術MOOK／小学館）など多数。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。

学習習慣を支える 国語の力

学習習慣は、学校生活を送るうえで基本となるものです。授業が始まる時、教科書やノートの準備ができている、先生や友達の話聞くという姿勢になっている、という習慣が学校生活には欠かせません。このような習慣を支えるのは国語の力です。なぜなら、学校生活の多くは言葉を通して考え、行動をする場だからです。先生の指示を聞いたり、自分の行動や気持ちを言葉で表したりするなど、言葉をふんだんに使って生活しています。

入門期の『国語』教科書は、挨拶や返事をする、主語・述語の文型で話すなど、言語生活の基本を指導するようになっています。これらは、言葉で豊かな生活をする基本となる力なので、一年生のこの時期に、ぜひ身につけさせたいものです。国語の学習内容が日々の生活と直接結びつくことを

自覚させると、授業への取り組み方が変わるでしょう。

目標を自覚させ、 学習習慣の形成を促す

四月の授業びらきで、一年間の学習目標を明確にしましょう。学年末にはどんな力を習得しているかを明確にすると、学習態度に勢いが出てきます。それが学習習慣の形成を促します。目標づくりの有力な手がかりは、教科書です。冒頭の「目次」「学習を見わたそう」「いつも気をつけよう」や、巻末付録の「たいせつ」のまとめ」などは、習得すべき学習内容を示しているので、これらを活用するとよいでしょう。

「書くこと」を大切にした 学習習慣づくり

国語の授業は、学習成果が分かりにくいといわれています。「話すこと・聞くこと」は、学習活動の再現が難しく、「読むこと」

は、浅い読み・深い読みが分かりにくいという側面があります。その中で、学習履歴が残り、成果が分かりやすいのは、「書くこと」です。日記・学習ノートをはじめ、書く場は多様にあります。「書くこと」は、語彙力や表現力を高めるとともに、集中力や思考力を育てます。時間と手間を必要とするので、敬遠されることもあります。が、「書くこと」を大切にしたい学習習慣づくりを心がけたいものです。

* * *

本特集は、低・中・高学年別に、新学期から始める学習習慣づくりの方法をご紹介します。低学年編は、「その子がその子になれる時間を大切に」「中学年編は、「安心と刺激」、高学年編は「仕切り直し」をキーワードに、教室づくりをスタートします。それぞれのクラスの状況に応じたキーワードを考えながら、学習習慣づくりを始めてみましょう。

低学年編

—その子とその子になれる時間を大切に—

お茶の水女子大学附属小学校 教諭

岡田 博元



四月、一年生の子どもたちは、学校という新しい世界に、それぞれの期待と不安を抱いて入学してきました。そのとき、まず大事にしたいのは、その子とその子になれる時間を保障することです。「言葉」を紹介してそういった場づくりをしていくことは、その後の教室の学びをつくっていくうえでも重要な意味をもってきます。



▲サークルタイムの様子

を、子どもに意識づけるのです。

平仮名の学習が始まったばかりの時期であれば、ノートに丁寧に「ちょう」と書かせて、そこに、モンシロチョウが二匹飛んでいる絵を描かせます。絵に表すことで、二匹という数や、「白い紙に白いチョウを描くには？」という、色の使い方の学習にもつながります。

一年生の生活は学びにあふれており、ここには、国語、算数、図画工作という線引きはありません。子どもたちの興味・関心からその日の学びが生まれていくように、「サークル対話」のような時間を大事にしています。

サークル対話

私が一年生の教室で初めに行うのは、みんなが集まって、その人を感じる場と時間をつくることです。教室の前方を空けて丸椅子やベンチでサークルを作り、そこで自分たちの興味や思いを語る「サークルタイム」を設けています。

入学したばかりの時期は、話を聴き合って、言葉を交わしていくことは難しいので、絵本の読み聞かせをしたり、簡単なコミュニケーションゲームをしたりしながら、「みんなで聴き合う時間」をつくっていきます。言葉だけで伝え合うのではなく、そこで話されたことを自分たちの活動として実際にやってみる、やってみて気づいたことや感じたことを、またサークルになって伝え合うというところまでを含んでいます。「自分たちの声で、教室の活動が動いてい

本に親しむ

これから紹介する活動は、前述の「サークル対話」から発展したものです。一年二学期からは、「サークル対話」の中に、好きな本の発表も加えていきます。一人の発表をきっかけに、他の子どもたちも「本を手にとってみよう」と思えるよう、扱いを工夫しています。

一つは、「読み聞かせ」です。子どもが発表した本を教師が読み聞かせます。短い絵本ならその場で読み、長いものなら複数回に分けて読みます。私は帰りの会の中で読むことが多いです。

文字を読めるようになったばかりの子が、自分で読みながら絵を見ると、読み聞かせを聴きながら絵を見るのとでは、想像力の働かせ方が違います。集中して聴き、物語の世界に入り込むことで、想像力をたくさん働かせることができます。

本の発表が日常化するには、環境面の工夫が必要です。読み聞かせた本の表紙をコピーして掲示したり、「読み聞かせ予約ボックス」を置いたりすることで、自分が発表した本が取り上げられたという実感をもたせます。もっと本を紹介しようと思える環境をつくるのです。

くんだ」ということが感じられると、子どもたちは自分の関心事を言葉で表したくなり、自分とは違う関心事をもっている「他者」を感じられるようになっていくのです。例として、サークル対話で次のような話題が出たときの学習展開をご紹介します。

話し手 ……朝、ちようちよが飛んでいました。
聴き手A ……どこで見つけたの？
話し手 ……畑の所。
聴き手B ……見た見た！ 二匹いたよ。
聴き手C ……何色だった？
話し手 ……白。
聴き手D ……モンシロチョウだ。

ここで私は、「どこで見つけたの？」「何色だった？」という発言を改めて取り上げて、よい質問だったと褒めます。これらの質問によって、話がつながっていったこと

二つ目は、「読書ゲーム」です。子どもたちが反応しやすい作品の特徴を使って、読み聞かせの後にゲームを行います。

例えば、一度読み聞かせた後に、わざと違う表現を入れて読む「ダウトを探せ」は、その作品の特徴的な表現を意識させる効果があります。

「読書ゲーム」に適した本は、教師が選ぶこともあります。次の表は、昔話を集めて帯単元を行ったときのものです。

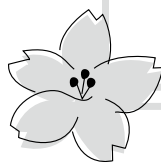
学習材(本)	学習活動	作品の特徴
天にのぼったおけや	何の音？ (擬音語を考える)	擬音語 擬態語
ねずみきょう	ダウトを探せ 語り口調を工夫した 音読の対比	対比 構造
見るなの座敷	座敷の中を想像する (場面絵・紹介文)	繰り返し
米福栗福	シンデレラとの比較 (場面展開を考える)	比較

※一つの作品に1〜2時間充てる。

国語の時数の多い低学年では、このような帯単元をつくりながら、子どもたちが本に関心をもてる機会を繰り返し設定することを意識しています。

中学年編

—「安心と刺激」を意識して—



関西学院初等部 教諭
野村真一



期待と不安の入り混じる春。そこに必要なのは「安心と刺激」です。

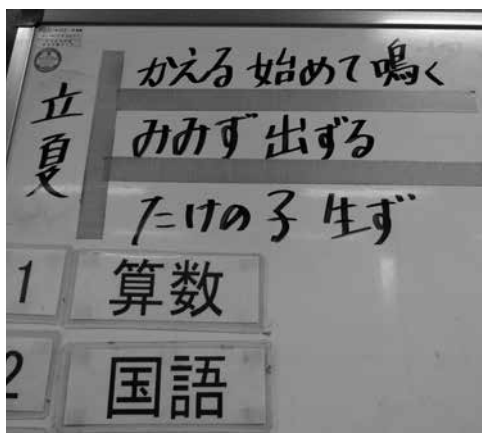
国語では、子どもたちが豊かに関わり合う中で深い読みに達します。どんな意見を口にしても聞き合えるクラスであるかどうかは、「安心」を得るために大切な要素でしょう。聞く・聞かれる場を日常的に設定し、できるだけ多くの体験ができるようにしています。

また、曖昧なままでは終わらない国語であることも大切です。読みの観点や用語など、国語としての学習内容が確かに習得されていくことで、そこに「安心」が生まれます。

そしてときどき、いつもとは違う「刺激的な取り組みが挿入される。子どもたちはそんな国語の時間を求めているのではないのでしょうか。ここでは、私が最近の学級びらきで実践している方法をご紹介します。

二十四節気七十二候

子どもたちには言葉に敏感であってほしいと願っています。一年を二十四等分した「二十四節気」と、さらにそれらを三等分し時候を表した「七十二候」を、教室正面



▲教室内のホワイトボード

漢字博士

新出漢字一字につき一人の担当者を決めます。毎日二人ずつが前に出てきてその漢字の解説を行います。その際、デジタル教科書の漢字コンテンツを利用して視覚化を図ります。制限時間は一分。漢字ドリルには載っていない情報を発信します。語源や

のホワイトボードの片隅に書くようにしています。年間を通して更新し続け、さまざまな言葉に出会わせます。先人の知恵とは見事なもので、季節の節目を本当によく捉えていることが伝わり、感嘆の声が上がることもしばしばです。子どもたちにとって花鳥風月の句を捉える力は、人生を豊かに生きる糧となるでしょう。この毎日の積み重ねは、後に述べる俳句の季語の学習にも直結します。

詩の朗読

四月の最初に、音読用の詩集（担任による百選）を配布します。それぞれの詩には通し番号が付けてあります。番号が大きくなるにつれて難易度が上がっていき、特に八十番台以降は、内容を解釈するのが難しいものもあります。しかし、あえてそれを選挙する子どもも多く、背伸び感覚が魅力の一つになっているようです。そして、この詩集を用いて「詩のバトル」をします。「バトル」というと少々物騒ですが、子どもたちが大好きなイベントです。

者は、〇〇さん」とコールをしながら勝者の腕を持ち上げるといふ形式です。これが思いのほか白熱するのです。ジャッジする子どもたちからは、音読者に対して温かくも鋭い感想・批評が述べられます。こうした営みが子どもに安心を生みます。自分の頑張りに対して仲間が関心をもってくれるという安心感です。私の役目は、負けたほうのよさにも光を当て、次への意欲をもたせることです。何巡目かになると組み合わせ抽選が大きな盛り上がりを見せ始めます。自然と読みの練習をしたくなる学習です。



▶【発表例】「孫」の語源「子の子へと一筋につながる糸」を、デジタル教科書のペンツールを用いて示しました。

ルールはシンプルです。あらかじめ対戦相手をつくじで決めて、一日一組ずつ対戦していきます。二人が順に詩を朗読し、どちらの読み方がよく工夫されていたか、クラス全員がジャッジします。審判役の子ども（日直当番）は全員のハンドサインをざっと見渡して判断し、「勝



▲審判役の子どもがハンドサインを見渡しているところ

句会

子どもたちは句会が大好きです。たまに開くと大喜び。四月の早い時期に一度体験すると病みつきになること請け合いです。ルールはシンプル。「投句↓清記↓選句↓披露」の順に進みます。まずは「投句」。自分の句を短冊に書いて提出します。次に

「清記」。シャッフルして配り直された短冊を、新しい短冊に書き写します。この時点で、誰がどの句を書いたのか分からなくなります。そして「選句」。清記された句の前に並べて、通し番号を付けます。そして各自、よいと思う句を選びます。私のクラスでは一人二句ずつ選ぶことにしています。最後は「披露」。最も多くの点を集めた句

から順に、何がよかったのかを話し合います。ひととおり意見が出たところで「誰の句ですか」と問いかけます。たいてい皆うれしさと照れの混じる表情で手を挙げてくれます。句会のよいところは、誰が書いたのか分からない中で句を評価するところです。日頃の人間関係抜きに褒め言葉が飛び交うので、言われる側の喜びは格別です。

読み聞かせ

読み聞かせは、六年生になっても必要です。中学年ならばなおさらです。クラスを落ち着かせるためだったり、奮い立たせることをねらったりと目的はさまざまです。私は、途中で止めながら少しずつ子どもとの対話をはさむ「聞き手参加型の読み聞かせ」をよく行います。国語の既習事項を自然と確認できるように意識することもあります。学んだことの活用を子どもとともに実感する。そうした経験の積み重ねは、国語の学習への信頼を生むでしょう。学級びらきから、年間を通して、学びが積み重なるようデザインしたいものです。



▲「選句」の様子

高学年編

— 仕切り直しのよい機会 —

筑波大学附属小学校 教諭

青山由紀



四月は、どの学年の子どもたちも新鮮な気持ちになるときです。私は、この時期を、仕切り直しをするよい機会と捉えています。初歩的と思われるようなことでも、繰り返し指導することが大切ですが、学年が上がるほど、子どもたちは「今さらこんなこと」と基本的なおことをおろそかにしがちです。四月でしたら、子どもたちはいろいろなことを受け入れようとする心の準備ができています。このタイミングをぜひ生かしたいものです。

詩を使った「授業びらき」

国語の教科書の表紙をめくると、扉（ページ目）に詩が載っています。五年は「銀河」、六年は「創造」という詩です。この詩を使って、私は国語の「授業びらき」を行っています。

この詩をどんなふうに音読するか、考えて書き留めている。

▲児童のノート（「銀河」の視写）

【例】
5～6行目に着目させ、「乳の道」の部分に、自分だったら何という言葉を入れるか考えさせます。隣どうして意見交換をさせ、その様子を見取ります。発言力・発想力だけでなく、積極的に考えようとしているか、常に受け身の状態か、といった学習姿勢が分かります。考えることをおっくうからず楽しんでいるかが大事なチェックポイントです。

まずは、詩を視写させます。視写させるのと、筆速を含め、子ども一人一人のことがよく分かります。例えば、この数行の中に漢字の間違いがあれば、漢字が苦手なのかかもしれません。原稿用紙に書かせると、句

読点、かぎ、行替え、一行空きなどが正しく書けるかどうか確認できます。このような基本的なことを確認するとともに、子どもの発言力や学習姿勢などを見取る質問を投げかけます（左の【例】参照）。

「新聞」の帯学習

五年生の四、五月に、教材「新聞を読む」を学習します。これをきっかけにして、その後、六年生の終わりまで、新聞を活用した帯学習を行っています。

まず、授業の中で、記事のスクラップのしかたを学習します。記事を貼り、新聞名、発行日、内容、選んだ理由、感想を書きます。最初は、一日の新聞の中から、「気になる記事ベスト3」を選ばせます（下段ノード参照）。そうすると、普段読まないような記事もくまなく読むことになります。

次の段階として、私は五月五日（こどもの日）の社説を活用するようにしています。こどもの日は、多くの新聞社が、社説で子どものことを話題にしています。

例えば、平成二十七年五月五日の社説は、「こどもの日 地域のおせっかいが大切だ（読売新聞）」、「子どもの貧困―大人一人ひとりが動こう（朝日新聞）」、「こどもの日ゆつたりと、はぐくむ（毎日新聞）」、「社会全体で子育てを支えよう（日本経済新聞）」などでした。子どもへのメッセージや、子ども目線で書かれた大人への要求など、どれも身近な話題といえます。社説は難しいと思われがちですが、一文が短く、

事実と意見の区別がつきやすいというよさがあります。事実を踏まえたうえで自分の意見をもつという学習に適しています。一度読んだ経験があると、その後も「今日は何の記事かな？」と目を向けるようになるものです。

また、投書欄の見出しを空欄にして、どんな言葉が入るか考えさせる学習を行うこともあります。友達と意見交換をさせると盛り上がります。

授業でこれらの学習をした後は、帯学習の扱いで、日直が新聞記事についてスピーチをします。日直が選んだ記事をみんなが知っているわけではないので、スピーチをする際は、記事の内容を伝えるための要約が必要となります。要約は四年生のときに学習していますが、授業で扱うだけでは身につけません。帯学習として扱うことで、繰り返し学習することができます。

また、記事に表や図が入っている場合は、書画カメラを使って、全員に見せるようにします。資料をどのタイミングで見せると効果的か、回数を重ねること、子どもたちは自然と考えるようになります。

そして、スピーチの後は質問タイムです。人の話を聞いて質問したり、感想を言ったりする力は、普段の授業の中での発言とは

長い記事は折り畳んで貼る。

気になる記事 Best 3

1 面
起業：起業はふつう、経験を積んだ大人がするものだが、18歳くらいの高校生でもできる人、おとういなか

2 39 面
路線バス暴走100メートルパーポート突っ込む
理由：私達が普段乗っているバスが、最近何日も事故をおこしていて、死亡者も出ていて怖いと思うから

3 視覚障害者 野球
理由：視覚障害者のための野球がある、何人も人が参加しているのにおとういなか

〇〇新聞
2015.4.25

内容：高校生がインターネットを中心とした会社を立ち上げた

感想：私は、高校生でも起業ができることにおとういなか。なぜなら、起業は経験を積んだ大人がするものだと思っていたから。私もいつか起業してみたい、少し思った。

▲児童の新聞スクラップノート「気になる記事ベスト3」

社説
。事実
。考え：主張、意見
。会社の代表的な物として
。社会の大きな事を書く。

社会の出来事に対して、新聞社の立場で
論評を加えたもの。

結論 事例(3つ) 話題

① 児童福祉週間の標語
② 考えインターネット
③ 学校裏サイト

④ 社会の出来事(事件)プロ
⑤ インターネット
⑥ 世論調査
⑦ 筆者の主張

▲児童の新聞スクラップノート
5月5日の社説の構成を分析したもの。
丸付き数字は段落番号。段落ごとに事実と意見を区別している。

異なる力を必要とします。実際に質問する経験を重ねなければ、なかなか養えない力です。最初のうちは、スピーチの内容から外れた質問が出ることもあります。教師が例として質問してみたり、友達のよい質問を聞いたりしているうちに慣れてきます。質問する機会を全員がもてるよう、日直のように順番に回すこともあります。

新聞の帯学習は同じことを繰り返しているわけではありません。要約する力、資料を活用する力、スピーチや質問する力、比べ読みする力など、さまざまな力を養います。年間を見通してさまざまな学習とリンクさせていくと、帯がただの帯ではなく、全てをつなぐ帯になるのです。

(談)

その授業でどんな力がついたら、子どもは自覚できていますか？

梶山女学園大学 教授 森 和久

一九五八年、愛知県生まれ。名古屋市内の公立小学校教諭、校長、教育委員会勤務を経て、現職。

インフォームド・コンセント

随分昔、病院内学級に勤めていたときのことです。「インフォームド・コンセント」が大切だということけれども、子どもには難しいのではないかということを、小児科の医師に尋ねました。答えは、「子どもに分かるように行う必要がある」でした。この注射は何のために必要なのか、どんな役割の薬なのかなど、治療の意味を知り、納得していると、治療に対する前向きな気持ちが生じ、回復が違ってくるそうです。自覚的な目的意識は、まさに「生きる力」に直結するということを知らされました。

国語科における目的意識

では、国語科教育においては、目的意識はどのようなものか。国語科では、「学習者の目標」と「指導者の目標」とを別のものとして捉えることがあります。例えば、環境問題について扱った説明文の場合、子どもは、「環境問題の課題は何か」のように、教材の内容を追及しようとし、ます。いっぽう、教師は、その教材で「要旨を捉える力をつける」のように、言葉の力に身につけさせようとしています。子どもの目標は「内容の追究」であり、教師の目標は「能力の育成」であるというように、異なる目標をもつことがあります。

こうした目標設定のしかたを、「教師の意図的な仕掛け」として肯定する考え方もあります。けれどもそれでは、先述のインフォームド・コンセントの例のような、子どもの自覚的な目的意識にはつながりにくいといえます。アクティブ・ラーニングを目ざし、能動的な学習を行ってはいても、例えば、「環境問題について考えよう」という話題や「壁新聞を作ろう」という活動のゴールが明確になっているだけで、その結果、どのような言葉の力がつくのか、子どもに明示されていない場合があります。つまり、何のためにその学習をするのかを、子どもが自覚できないのです。それでは、「どんな言葉の力がついたのか」という観点での振り返りもできません。

指導目標を子どもに分かるように提示しよう

四月から授業を進めるにあたって、どんな言葉の力をつけるのかを、子どもに分かるように提示したいものです。その際の留意事項を三つ示します。

①具体的な目標にする

指導目標をそのまま示すと、大枠すぎて子どもに分からない場合が多いものです。そこで、その目標が達成されたときの具体例を子どもに示すといでしょう。例えば、「相手に分かりやすい表現の工夫」を目ざす場合、「相手がよく知っている例をあげる」「疑問形の見出しを付ける」などです。

②子どもから生まれた事柄を目標にする

例えば、学級内の子どもが書いた「どうして〇〇は△△なのか」という見出しを取り上げて、よい点について共通理解させます。そのうえで、みんなも「疑問形の見出しが付けられるようになる」というように目標を示すと、子どもにとって分かりやすいと思います。

③明確な評価規準を先に示しておく

先の例でいえば、どんな疑問形の見出しがよいのか子どもたちに考えさせます。例えば「話題の中心に合った疑問形になっているか」「身近な疑問でありながら意外性のある疑問になっているか」というように、明確な規準をあらかじめめとせるとよいでしょう。

自己評価させることが大事

子どもに分かりやすい目標は、振り返りもしやすいはず。国語科で身につけた力が、他教科や実生活の場で生かされているかどうかを子ども自身が自覚できるということは、非常に大切なことです。

そこで、国語の学習で学んだことをリストにして、それを実際に使うことができた印を付けるという、振り返りの場を定期的に設定してはどうでしょうか。

リストは、日々の授業の目標の中から、とりわけ汎用性が高いと思われるものを、蓄積していくといいと思います。すぐにできる方法としては、教科書に載っている「いつも気をつけよう」（「国語」二～六年冒頭）をリ

ストにするというものです。

教師はこのリストを日頃から意識しておき、その能力が発揮された場面で、「今、Aさんは、事実と自分の考えを区別して話すことができたね」「声の大きさに気をつけて話すことができたね」などのようにその都度評価し、それを自己評価するよう促します。リストは、子どもがすぐに取り出してチェックできるように、カードにして持たせておいたり、教室に掲示しておいたりするのもよいと思います。

今話題になっているアクティブ・ラーニングですが、表層的な活動にならないよう、どんな力を身につけるのか、子どもが自覚することが必要です。そして教師は、「この国語の学習を、社会のあの単元の前にやっておくと、国語で身につけた能力が使えるな」というように、扱う順序を工夫できればすばらしいと思います。

このように、教師と子どもがあらゆる場面で目標を意識するだけで、教え方や学び方の質が変わってくるのではないのでしょうか。

「ワーク」で、取材の観点を確かめる

これまで五回にわたり、子どもたちの言葉の力を育む授業を行つたための、デジタル教科書を活用した事例をご紹介してきました。最終回の今回は、写真や「ワーク」を使って、書くための取材の観点を学習する実践をご紹介します。

1 「書くこと」の学習過程「取材」

現行の学習指導要領において、「書くこと」領域の指導事項は、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」という、五つの学習過程から構成されています。

このうち、「取材」とは、文字どおり、経験・想像・考えたことをもとにしたり、調べたりして、書くために必要な事柄を集めたり整理したりすることです。教科にかかわらず、児童が日常的に行っている活動といえます。ただ、指導の点からいうと、「よく見てね」「詳しく調べて」などと声をかけることの他に、どのような手立てを講じれば、児童に取材の力が身につくのか、教えることに難しさを感じていらっしゃる先生方も多いのではな

いでしょうか。

そこで、今回は、取材の力を身につけさせるための、デジタル教科書の意図的・効果的な使い方について考えてみたいと思います。私のこれまでの実践の中から、取材の指導に重点を置いた単元「ていねいにかんさつして、きろくしよう」(二年上「かんさつ名人になろう」)の事例をご紹介します。

2 「かんさつ名人になろう」(二年)

「かんさつ名人になろう」では、対象をさまざまな観点から丁寧に観察して書く言語活動が位置づけられています。これまでに児童は、生活科の時間に大切に育てたキュウリの生長を楽しみにする日々を送っていました。ですから、キュ

ウリの生長の具合をよく見て記録することとは、児童にとって意欲的に取り組める学習活動といえます。本実践では、「書くこと」の指導事項の中でも「取材」に重点を置き、丁寧に観察して詳しく記録することを学習させたいと考えました。

観察をさせる場合、「よく見てね」と言っても、具体的に何を見ればよいのか、よく見るとはどういうことなのか分からない児童も少なからずいます。そこで、観察をする前に、デジタル教科書を活用して、生活科での観察の学習を振り返る活動を設定することにしました。

(1) 単元の指導目標

◎丁寧に観察し、題材に必要な事柄(気づいたことや分かったこと)を集めることができる。(書(1)ア、伝国(1)イ(ア))

○観察対象の様子や自分の気づきなどが相手に伝わるように題名を付け、工夫して書くことができる。(書(1)イ)

・書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。(書(1)オ)

《言語活動》観察したことを記録する文章を書く。

(2) 単元の指導計画(全十四時間)

▼第一・二時

学習の見通しをもち、対象を決めて丁寧に観察する。

・「観察名人になるために、丁寧に観察し、気づいたことを記録しよう」という学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。

ここで活用!

・生活科などで観察したことを振り返り、気づいたことを話し合い、五感を使うことが、詳しく観察することにつながることを確認する。

▼第三・四時

観察したことを記録する文章の書き方を理解する。

・教科書P37の作例を読み、観察記録文を書くときに大切なことを整理する。

・教科書P38の二つの作例を読み比べ、続けて記録していくと、変化の様子がよく分かることを理解する。

▼第五・九時

観察記録文を書く。

▼第十・十一時

観察記録文を友達と読み合い、よく観察できている点、よく表現できている点をカードに書いて交換する。

▼第十二・十三時

カードを読み、自分の観察記録文を書き直す。

▼第十四時

学習の振り返りができるように、観察記録文を書くときに大切なことを「観察名人の技」として、教室に掲示しておく。

3 活用のポイント(第二時)

■写真を使って、観点を確認する

本学級の生活科では、この時期までに、大きさ・形・色などに着目してキュウリを観察し、その生長を観察カードに記録し続けてきました。なかには、葉の枚数や茎の長さに着目して書くことができるようになってきた児童も見られました。



東京都生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。横浜市内の公立小学校教諭、主幹教諭を経て、現職。専門分野は、教育工学(授業設計、情報教育)、教科教育法。共著書に『タブレット端末で表現する協働的な学び』(フォーラムA)など。

ただ、観察の観点や表現のしかたに不十分な点が見受けられました。そこで、本時では、そうした生活科での学習を再確認することを通して、新たな観点到気づかせることと、観察したことを、どう表現するとよいか考えさせることをねらいました。

授業の初めに、生活科の時間に撮影したキュウリの花の写真(次ページ図1)をパソコンに取り込んでおき、それを電子黒板で提示します。大きく表示された写真をみんなで見ながら、それぞれの観察記録カードに書かれている文章を確認していきました。

花は、きいろです。花のまんかに、きみどりいろをしたまあるい花みたいなのが、あります。花の中に、また花があつてふしぎです。

というAさんの文章や、

花は、きいろです。花のまわりは、ぎざぎざしています。

というBさんの文章を紹介し、色や形について書くと、生長の様子が分かりやすいことを、まず確かめました。こうして全員で確認したことは、「観察名人の技」としてまとめていきます。



▲図2：ワーク「どこをどのようにかんさつしますか」

次に、写真の○印の部分拡大して提示しました。児童がそれを見つめるなか、教師は、拡大した部分を黙って指さしました。

児童C 先生、花の下に小さいぎざぎざしたのがあるよ。

児童D 本当だ！

児童E あった、あった。

児童F ちっちゃいキュウリみたいだ。

さまざまな意見が教室の中を飛び交います。

教師 そうだね。Cさんは、この長いところに気がついて、カードに書いていたんだね（気づいた子を褒める）。でも、これって小さいからよく見ないと分からないんだよね。Cさんは、花の後ろの方まで見たから気がついたんだね。すごいね！

ここで、「観察名人の技」に、「いろいろな方から見る」という項目を付け足しました。合わせて、生活科での学習を振り返りながら、見るだけでなく、匂いをかぐ、触る、耳を澄ますなど、五感を使



▲図1：電子黒板で提示したキュウリの花の写真

うことで、詳しく観察することができるよう、このことを再度押さえるようにしました。

この後も、児童が写真を見て気づいたことから、観察の観点を抽出していきました。それを通し、児童は、これまでの自分の観察に足りなかった新たな観点に気づくことができたようでした。

■観察のしかたを確認する

観察するときに必要な観点について確認することができたので、次は早速、書き方の学習へと進みたいところです。

発言していききました。

教師 ザリガニ君を「いろいろな方から見て」、何かがついた人はいいますか。

児童G 手に取ってこうやって見ると

（指でつかむ動作をしながら）、足をたくさん動かして（ばたばたする動作をしながら）、おなかが見えました。

児童H はさみのところに割り箸を近づけたら、ぎゅってはさみを伸ばしてきて、びっくりしました。

こうした発言から、「いろいろな方から見る」という観点で観察するには、手に取って持ち上げたり、割り箸を近づけたりするという方法があることを押さえます。そして、それを短冊に書いていきます。

このとき、例えば、「どう書くと、足をたくさん動かしている様子が分かるかな」と投げかけたり、「ぎゅってはさみを伸ばす」という表現を動作とともに確認させたりするよう心がけました。観察したことを、どう表現するとよいかを意識させるためです。この短冊は、第五（九時で観察記録文を書くときに生かすようにしました）。

学習活動を通して、児童は、丁寧に観察するための新たな観点に気づき、具体的な観察の方法を学んでいきました。

しかし、ではこの観点に沿って、具体的にどう観察すればいいのかということについては、児童の理解がまだ不十分なように思いました。そこで、そのことを確認するために、もう一度、みんなで考える場面を設けることにしました。デジタル教科書に収録されている「ワーク」（図2）を使うのです。

ワーク「どこをどのようにかんさつしますか」には、教科書P35に掲載されているのと同じザリガニの写真と、「大きさ」「形」「色」「長さ」などといった、観察の観点を示すカードが用意されています。このカードは、自由に動かすことができます。ザリガニのどの部分を観察するときに、どの観点を意識するとよいのか。そして、そのためにはどんな観察方法があるのか。それらをみんなで考えながら、写真の上にカードを配置していきました。

当時、本学級では、アメリカザリガニの「ザリガニ君」を飼育していました。ですから、ここではそのザリガニ君を、生活科の時間に観察したときのことを想起させます。対象がザリガニなので、動くものを観察するときの観点を押さえることもできます。児童は、写真のザリガニをザリガニ君と呼びながら、意欲的に

4 実践から分かること

本単元では、これまでの体験を想起させながら、みんなで観察の観点やその方法について確認していくために、デジタル教科書を活用しました。児童は、意欲的に学習に取り組み、これまでの自分の経験と結び付けながら、書くために必要な事柄を集める方法を身につけることができたのではないかと思います。

5 デジタル教科書を効果的に使う

授業設計の際には、まず、児童の実態を把握し、その単元や本時のねらいを明確にする必要があります。このとき、デジタル教科書をはじめとしたICT機器を授業に取り入れるべきかどうかを的確に判断するためには、それらの特性を知ったうえで、効果的な活用場面を見極める力が求められます。本連載のバックナンバーや、さまざまな活用事例集を参考にしながら、その力をより高めていくべきです。

本連載は今号が最終回となります。ご愛読ありがとうございました。

「古代文字」を楽しむ

「書写好き」に

今号は、台東区立書道博物館に勤務されている、鍋島稲子先生の研究員としての日々の活動の中から、子どもたちが漢字や書に
関心をもつようになるアイデアや、取り組みをご紹介します。

「みんなが楽しめる」「古代文字」

鍋島先生は、年に数回、小学校で講師をされることがあるそうですね。

鍋島 書き初めなどのいわゆる書写指導の他、漢字や書に親しみをもってもらうため、古代文字（三千五百年前の漢字）を使った授業を行っています。子どもたちの反応を見ると、古代文字は学年にかかわらず楽しめる題材なんだと感じます。

―そもそも、なぜ、古代文字を取り上げることにしたのでしょうか。

鍋島 まず、文字そのものに興味をもて

ることが大切ではないかと考えました。また、クラスの中には、習い事などで書の経験が豊富な子もいれば、未経験の子もいますし、すでに多くの漢字を知っている子もいれば、そうでない子もいます。通常の授業とは異なる、全員が同じスタートラインに立って楽しめる学習は何だろうかと考えた結果、この授業が生まれました。三千五百年前の文字だったら、どんなに先取り学習をしている子どもでもさすがに知らないでしょう（笑）。

―具体的には、どのように授業をするのでしょうか。

鍋島 はじめに、墨で書いた古代文字をいくつか提示します（下段写真）。そして、この古代文字が何を表しているのかを子

どもらっています。

実はここ数年、幼稚園や保育所からも出張講師の依頼があるんです。

―就学前の子どもたちには、古代文字は難しくないのでしょうか。

鍋島 漢字を全く知らない子どもでも、「山」「川」「子」などの象形文字でしたら、何を表しているのか当てることができます。絵を見ている感覚なんだと思います。知識や先入観がないので、素直なおもしろい意見が出るんです。古代文字の「川」を見せたとき、ある子は「何かが流れている」と言いました。「川」という言葉は出なくても、その文字が表すものをよく想像していると思います。ちなみに、うなぎ屋さんの子どもは、「うなぎが三匹泳いでいる」と答えました（笑）。もちろんうなぎではありませんが、古代の人々もそうやって生活体験に基づきながら漢字を考え出したんだらうね、という話をしました。

2 文字への関心を高める

―古代文字を扱った授業の中で、特に配慮していることなどはありますか。

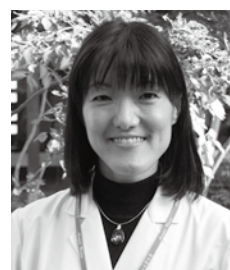
鍋島 小学校でも幼稚園・保育所でも、その文字が何千年前にどこで書かれたものなのか、歴史的なことに必ず触れるようにしています。子どもたちがいちばん驚くのは、文字が「骨」に刻まれていたということ。なぜ、石ではなく骨だったのか、子どもたちから疑問の声が上がります。そこで、当時は占いに使うために、神聖なもの（骨）に文字を彫っていたという話をします。書道博物館にある甲骨文字のレプリカを持参して見せると、子どもたちは興味津々です。

教科書（『書写』六年P20～21）にも、「文字の歴史」について取り上げているページがありますね（次ページ※2）。紙面にもあるとおり、最古の文字は骨に刻まれていましたが、二千年前は金属に替わります。先祖をまつるための祭器に文字を表す必要があったんですね。その後、石に文字を彫るようになりました。時代とともに、文字を記すための素材も変化を遂げてきたわけです。このような歴史的

※1 ワークシート

漢字の成り立ち				名前
みんなが使っている漢字は、長い歴史の中で少しずつ形を変えながら完成しました。昔の漢字から、今の漢字がわかるかな？				
約三〇〇年前	約二〇〇年前	約一〇〇年前	今の漢字	
𠂔	𠂔	𠂔		
𠂔	𠂔	𠂔		
𠂔	𠂔	𠂔		
𠂔	𠂔	𠂔		
𠂔	𠂔	𠂔		

▲台東区立金竜小学校での授業の様子。
耳を表す古代文字について解説している鍋島先生。



鍋島稲子

1965年生まれ。台東区立書道博物館主任研究員。筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。博士（芸術学）。

書道博物館では、子ども向けのイベントなどを開催しているそうですね。
鍋島 毎年夏休みに、キッズセミナーを開催しています。私が学校に行くときは、甲骨文字や青銅器のレプリカしか持ち出せませんが、博物館に来てもらえれば、本物を間近で見てもうることが出来ます。でも、ただなんとなく見るのでは印象に残らないと思うので、昨年は、「漢字の動物園」と名付け、動物を表す漢字の変遷を展示しました。動物を表す漢字は、動物の全身をかたどったもの、顔のみをかたどったもの、特徴を強調したものなどさまざまです。子どもたちに、「甲骨文字の中から好きな動物を探そう」と声をかけると、みんな、漢字の変遷と甲骨文字を見比べながら、楽しそうに鑑賞していました。興味をもつきっかけをつくることが大切ではないかと思っています。
 書道博物館というと、専門的で敷居が高いイメージがあるかもしれませんが、

4 気軽に楽しんでもほしい

なので、書の一回性をぜひ味わってほしいと思います。



▲漢字の成り立ちについて解説する鍋島先生。



▲うちわ作りのキッズセミナーの様子。好きな古代文字を書き、うちわを作る。



台東区立書道博物館

■入館料 一般 500円(300円) 小・中・高校生250円(150円)
 ※()は20人以上の団体料金
 ■開館時間 9:30～16:30 (休館日は月曜)
 ■電話 03-3872-2645
 ■アクセス JR鶯谷駅から徒歩5分
 ■HP <http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/>

東京都台東区にある書道博物館は、洋画家であり書家でもあった、中村不折(一八六六―一九四三年)が収集した、書道史研究において重要な資料を収蔵している専門博物館です。
 紙に書かれた書だけでなく、刻まれた甲骨文字や、石碑に刻まれた力強い隸書や楷書を見れば、漢字や書への関心がより高まることでしょう。

書道博物館へ行ってみよう

外国からのお客様さまは、わりあい気軽に訪れてくださっています。書の体験なども、外国人のほうが純粹に楽しんでいるように思います。日本の子どもたちにも、

もつと書を身近に感じてもらいたい、楽しんでほしいですね。そのための普及活動を、私も積極的に行っていきたいと思っています。

もっと知りたい

文字の歴史

私たちがふだん使っている文字は、いつ、どこで生まれたのだろうか。

三千年以上前

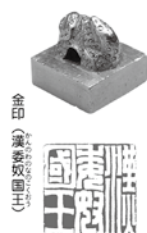
漢字の誕生

漢字は中国で生まれた。うらないに使うために、動物の骨などに文字をほったのが、始まりとされる。

漢字の伝来

日本には、もともと日本語を書き表すための文字がなかった。漢字が中国から伝わると、漢字の音を借りて、日本語を書き表すようになった。

日本で出土した最古の漢字



最古の漢字



甲骨文

漢字は、現在世界で使われている中でいちばん古い文字なのです。



20

▲※2『書写』6年P20

3 やり直しができないからおもしろい

ところで、小学校の書写授業では、プラスチックの硯など、扱いやすさを重視した用具をよく見かけます。趣がないようにも思いますが、先生はどのようにお考えですか。

鍋島 もちろん用具からきちんとそろえるのが理想ですが、日常的に墨と筆を使うわけではないですから、時代に見合った形で簡素化されるのは致し方ないですね。四十五分という限られた時間や、子どもの年齢を考えると、用具の片づけを楽にしないといけないのも分かります。プラスチックの硯は軽いですし、洗いやすいのもよい点です。用具を軽視するというよりも、みんなが書に親しみやすいようハードルを低くする、という考え方にしてはどうでしょうか。

でも、便利なものを使ったとしても、墨と紙は大事にしてほしいと思います。最近では、洋服に付いても落とせる墨などがあるようですが、書は消せないところに緊張感やおもしろさがあるものです。やり直しができないから、書を書くときは自然と真剣になるわけです。墨汁でい

書く力を身につけるには
 「日常指導」と「単元指導」を
 結び付けることが大事
 次の表を見てね

「日常指導」	「単元指導」
書くことを 楽しんでいか 授業で学んだ ことを活用しよ うとしているか	教科書を使って 授業で行う指導
評価の観点	その単元の 「書くこと」の ねらいが達成 されているか

例えば「書くこと」単元の
 三年上「気になる記号」、
 55ページの表のいちばん上
 を見てみて

「いつも気をつけよう」
 (P6)を見よう
 と書いてあります

6ページには
 二年生までに
 学習した内容が
 まとめてあるわ

書くときに
 気をつけることを
 ここで確認しよう

このページ
 いつも
 飛ばしてた…

ちゃんと
 見ようっ！

書くときに
 気をつけることを
 確認したら

あとは55ページの
 表の順番に沿って

- ① 書く材料を集めて
- ② 組み立てを考えて
- ③ 報告する文章を書く
- ④ 文章を読み合う

という
 活動をしませう

よしっ!!
 四月よ!!
 三年生担任
 富田先生

桜の咲く四月…
 新学期の四月…
 そして
 リセットの四月!!

今までの
 全てを
 リセット
 !!
 いったい
 何が
 あった!?

恋人と
 別れたとか?
 いやですよ!!
 国語の授業の
 ことです

子どもたちに
 書く力を身に
 つけてほしいん
 ですけど
 去年はなかなか
 思うように
 いなくて

今日は作文!

うんええ

去年のクラス

そこで四月から
 また気分も新たに
 がんばろうって
 前向きに!!

うん!
 それはいい
 ことよね

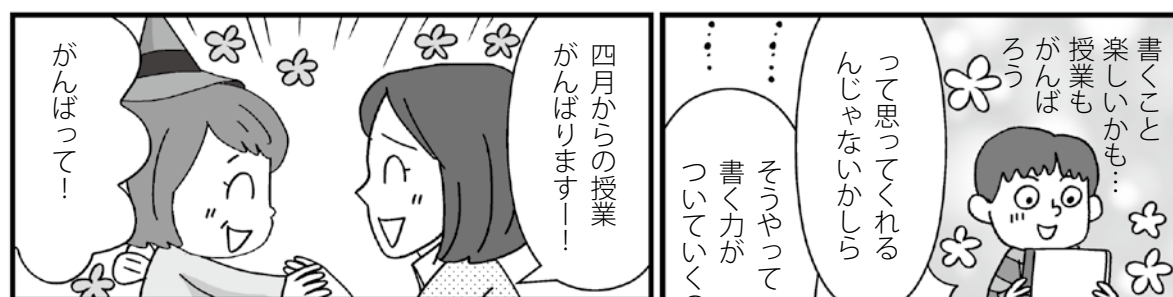
とりあえず
 毎日何か
 書かせるか

それは
 やめて!!

とにかく何か書いて!
 では書く力をつける
 のは難しいわ

まず指導の
 全体像を
 理解しましよ

指導の全体像?



「書くこと」の力をつける秘訣は、見通しをもって継続することと、ねらいに即して評価すること。
4月は絶好の機会です。子どもたちの「やる気」に火をつける魅力的なスタートを！（コッシー）



国語 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成28年度用教科書では、平成27年度用教科書から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

学年	巻	ページ	行など	27年度	28年度
2年	上	23	欄外	(挿入)	ペンギン (※「ペ」「ギ」の初出箇所)
		68	上段吹き出し	こうみんかんに、	こうみんかんの <u>そう</u> こに、
	下	19	下段1	<u>自分</u> の考えをもとう	<u>じ</u> 自分の考えをもとう
		126	上段6	・話すことのじゅんじょを <u>かんが</u> える。 る。	・話すことのじゅんじょを <u>かんが</u> える。 る。
3年	上	35	上段12	しつもんしたり、	しつもん <u>を</u> したり、
		57	欄外	(挿入) 近所	円い 近所 (※「円」の「まるい」の読みの学習箇所)
		59	下段	分かりやすいなと思ったところは <u>ありましたか</u> 。	分かりやすいなと思ったところは <u>どこ</u> ですか。
		72	8	もう一 <u>つ</u> の声も、	もう一 <u>つ</u> の声も、
		72	欄外	一羽	(削除)
		72	欄外	はり出した <u>ところ</u> を、	はり出した <u>所</u> を、
		81	ふりかえろう	新しく発見したりしたことは <u>ありましたか</u> 。	新しく発見したりしたことは <u>なん</u> ですか。
		84	下段15	相手の名前の <u>じゅん</u> で	相手の名前の <u>じゅん</u> で
		117	欄外	鉄板 (挿入)	鉄板 羽子板 (※「羽」の「は」の読みの学習箇所)
		119	12	yが <u>く</u> るとき	yが <u>来</u> るとき
		130	上段4	村へと <u>まわ</u> って	村へと <u>回</u> って
	下	140	2段目	円 エン △まるい	円 エン まるい
4年	上	62	下段	読み手に <u>伝</u> わるように、	読み手に <u>つた</u> わるように、
		88	囲み6	〈中〉理由と	〈中〉理由と、
		122	下段11	・中――理由と	・中――理由と、
		140	3段目	円 エン △まるい	円 エン まるい

4年	下	10	欄外	円い	(削除)
		21	欄外	お <u>ねん</u> 仏	お <u>ネン</u> 仏
		137	3段目	円 エン △まるい	円 エン まるい
5年		11	3段目5-6	・答える人はひと言ではなく、	・答える人は、 <u>ひと</u> 言ではなく、
		38	1段目1	金環日食は日本時間午前7時頃、	金環日食は日本時間の <u>午前</u> 7時頃、
		66	右吹き出し1	<u>わたし</u> も、	<u>ばく</u> も、
		69	下段6	<u>お見送り</u> しましょう。	<u>お見送り</u> しましょう。 (※「し」まで傍線を引く)
		100	上段5	星のお <u>しやべり</u>	<u>(おしやべり)</u> 星のお <u>しやべり</u>
		148	下段3	<u>示</u> している。	<u>しめ</u> している。
		184	上段5	<u>メディア</u> について	「 <u>メディア</u> 」とは何かについて
		191	下段作例	・実際に料理を教えてもらえる	・実際に料理を教えてもらえる <u>。</u>
		191	下段作例	・体験できる <u>もの</u> がいい。	・体験できる <u>内容</u> がいい。
		192	下段		文末に句点挿入
		249	上段13	「エルダ <u>ッ</u> ト」	「エルダ <u>ッ</u> ト」
		257	上段左13	<u>たし</u> かめる。	<u>たし</u> <u>確</u> かめる。
		266	上段7	思う <u>もの</u> や	思う <u>事物</u> や
		266	下段7-8	風景や様子。	風景や <u>場面</u> の様子。
		279	1段目	<u>52</u> 述	<u>54</u> 述
6年		17	2-3		2・3行目の間を1行空ける
		29	上段9	<u>3</u> 行目	<u>4</u> 行目
		29	上段11	<u>6</u> 行目	<u>7</u> 行目
		48	上段5	最後に何を主張 <u>を</u> するか相談する。	最後に何を主張するか相談する。
		97		「ユニセフ」の <u>ホームページ</u>	「ユニセフ」の <u>ウェブサイト</u>
		99	5	その <u>ホームページ</u> には、	その <u>ウェブサイト</u> には、
		272	1段目		「全」の部首を「人」に変更

お詫び 検定中の申請図書に対する不適切な行為について

先般、新聞等で報道されましたとおり、弊社において、検定中に申請図書の内容の一部を教育現場の先生方に開示するという不適切な行為がございました。これは、文部科学省が定める規則（「教科用図書検定規則実施細則」）に違反する行為であり、文部科学省をはじめ、教育に関わる多くの皆様、国民の皆様に、教科書への信頼性に疑念を生じさせる行為であったことを深く反省いたします。

また、日々、教科書をお使いいただいている全国の先生方、児童・生徒、保護者の皆様に対して、多大なご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。とりわけ、教科書の質的向上のために真摯に有益なご意見をたくさんお寄せいただいた先生方には、弊社の誤った判断により、取り返しのつかないご迷惑をおかけしてしまいました。重ねて深くお詫び申し上げます。

弊社では、今回の事態を重く受け止め、全役員、全社員が、教科書発行者としての重大な責任と使命感をもつとともに、二度とこのような過ちのないよう、再発防止策を早急に確立してまいります。

このたびは、誠に申し訳ございませんでした。

光村図書出版株式会社

板書の文字、 気になったことは ありませんか？

光村図書の書写ハンドブックの決定版！

- 光村図書「書写」教科書 編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違いやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

好評発売中！

新・字形と筆順



宮澤正明 編

光村図書
定価：本体1,800円＋税
360ページ 四六判
ISBN978-4-89528-679-4

書写 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成28年度用教科書では、平成27年度用教科書から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

学年	ページ	行など	27年度	28年度
3年	34	下段右	ン <u>N n</u> (ローマ字一覧表／5年 p.37, 6年 p.39 も同様)	ン <u>n</u> (ローマ字一覧表／5年 p.37, 6年 p.39 も同様)
4年	12	下段右下	田 (「たいせつ」内の図／2画目の「折れ」 が上になっている)	田 (「たいせつ」内の図／後に書いた画が 上になるよう変更)
	36	上段	三つ目は、「 <u>読んでいる本の種類</u> 」 についてです。 (「ひまわり新聞」3段目)	三つ目は、「 <u>読みたい本</u> 」について です。 (「ひまわり新聞」3段目)
6年	27	右下	風花 晴れた日にちらちらとふる雪 のこと。または、山に積もった 雪などが、風にふかれて飛んで くるもののこと。	風花 風に乗って飛んできて、ちら ちらとまい落ちる雪のこと。
	35	上段	Shinagawaku (エアメールの差出人3行目)	Shinagawa-ku (エアメールの差出人3行目)

光村「デジタル教科書」小学校版バージョンアップ についてのお知らせ

平成28年度教科書訂正に伴い、本年3月にデジタル教科書およびCoNETSビューアのバージョンアップを行いました。

バージョンアップがお済みでない場合は、弊社ウェブサイト「デジタル教材」ソフトウェアサポートにあります手順書をご覧ください。ご不明な点がございましたら、お手数ですが、下記「デジタル教材お客様窓口」までご連絡くださいますようお願い申し上げます。



www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/swsupport/

「2016年03月07日 光村『デジタル教科書』
小学校版バージョンアップのお知らせ」ペ
ジ内の手順書をご覧ください。

デジタル教材お客様窓口

Tel：03-3493-5741 ※受付時間 平日9時から17時まで(12時から13時を除く)

Fax：03-6721-6884

E-mail：digital-info@mitsumura-tosho.co.jp